

特集

今に残る歴史的建築物



大分市内には、さまざまな年代の歴史的な価値のある建築物が数多く存在しています。今回は、江戸時代後期から昭和初期にかけての建築物を紹介します。



大分銀行赤レンガ館

国登録有形文化財

たくさんの人が行き交う中央通り沿いにたたずむ、赤いれんがが特徴の建物。現存する明治の洋風建物としては市内唯一のもので、その外観はひととき目立っています。

建物は、大正2(1913)年に第二十三銀行本店として建てられました。昭和20(1945)年の空襲で外壁を残し焼失したものの、戦後に再建。平成8(1996)年、国の登録有形文化財になりました。今では展示・イベントスペース、飲食店などを併せ持った施設となっています。



建設当時のれんが壁。
れんがはイギリスから直輸入された。

赤レンガ館と東京駅の意外な共通点

POINT

東京駅を設計した辰野金吾が手掛けた赤レンガ館！

大分銀行赤レンガ館は、辰野金吾と片岡安による設計。佐賀県出身の辰野金吾は、明治から大正の建築界で指導的な役割を果たし、東京駅をはじめとする数々の設計を手掛け、「日本近代建築の父」といわれました。

赤レンガ館の外観を見てみ

赤レンガ館



東京駅



DATA ○所在地 府内町2-2-1